



私の十五歳

今の3年生に伝えたいこと、自分のことを重ねて書きました。これから生き方の参考にすれば嬉しいです。



1月1日「20歳を祝う会」に出席してきました。私にとっては教諭として関わった最後の子どもたちでした。みんな見ちがえるほど立派な大人になっていました。話によると、今の3年生のお父さんお母さんだけ、こういって聞きました。早く知っていたら声が出せなかったかもしれませんね。北中卒の先輩たちもすぐ立派な姿でした。今の3年生も5年後はあの場にいますねー！今描いている夢が5年後には叶えられているのを祈りながら... それとも、今はまったく違う未来を思い描いているかもしれませんね。

——— 今回は私の15歳(中3)の時のことを少し話します。———

私は、これと言った取柄があるわけもなく、いって言えば素直くらいで頑張ったことと言え、部活動のことしか思い浮かびません。明け方暑くても部活ばかりしていたので、正直なところ勉強は苦手でした(結果、大人になって苦労しました)。

中3の夏、夏休み、いよいよ周りが受験モードに入っていくのわかりました。私もなんとかそれに便乗しようと仲のよい友達と同じ塾に通うので、勉強嫌いな私にとって塾での学習は屈辱的なもので、意欲もなくなり、気がつけばそこは、やっかいな友達とよばれ、バカな場所になっていました。やばい塾に行く目的がわからないまま退塾することになり、親にも無駄なお金をつかわせてしまいました。

秋になり、仲のよい友達たちが必死に勉強するようにになりました。いつか一緒に遊んでいた友達たちが、バレー、フットボール...と減っていく。気が付いたら独りぼっちでした。実は... もうあまり頑張らなくてもよかったんです...



たまたま3年間頑張ってきた素直で結果を残せたこともあり、私学から特待の誘いとピンできました。この夏のインターハイで全国制覇した高校から誘っていただいたことで、当時の私は有頂点にいたと思います。自分自身、今よりも高いところを目指していたから、迷うことなくその高校の受験を決意しました。この時点で合格内定です。たぶん11月ごろだったと思います。

受験勉強のあせりは全くありませんでした。だからのんびりしていた私に、取柄がなかったら必死で勉強している周りの同級生を見れば、"何と今さら頑張ったって..." なんて思っていた気がします。

そんな時、当時一番仲がよかった親友から思いがけない激しい言葉がぶつけられました。"ひうはずるかよ、特待で高校が決まるとだけ。俺たちは二人で頑張ろうと、お前は今の努力もせずに高校に行かるとだけ!!" この言葉はきつかにきつかった。悲しかった。そして悔しかった。でも一番は参考(サビ)のだった。親友のこの言葉で目が覚めました。私は本当に何も見えてなかったのだと。見ようとしていなかったのだと。それからやっと自分と向き合うことができた。今自分は何をすべきか、周りのことも見るようになりました。それから遅れだした勉強もしたし、人が寝ている時間はトレーニングに励みました。

私はあの時の、あの時代の自分が大好きです。あの時代の自分とて友を誇りに思っています。

"ボワ" "凡ミス"

— 実力テストを終えて —

子どもたちはよく"凡ミスした!!..." と言います。それで凡ミスする人は、たいてい次のテストでも凡ミスをしに戻ります。そう考えたら、もはや"凡ミス"という言葉に大きな問題があるように思います。

"凡ミス"も、結局は自分自身を許容する言葉だからです。"本当の私はもっとやれるんです。"というメッセージが込められているのです。はっきりいって、要するに力がない! ということです。力がないからミスをする。それと、思い知らなければミスは減らない。お医者さんが"今日は凡ミスをした。" と言って手術を失敗したら許せないでしょう。私たち教師が受験事務で凡ミスをして、その子どもの人生と台無しにすることは許されません。だからどう考えるべきか!!

"自分はミスしたら、それを許してはいけません!!" "ミスという言葉を使わない。" "勉強がたりていない。" と言う。そして、ただただ自分に謙虚に勉強に励むことです。

